

ルカによる福音書 4 章 1-13 節 「狭い道の先にあるもの」 2019/03/10

『1 さて、イエスは聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった。そして、荒れ野の中を“霊”によって引き回され、2 四十日間、悪魔から誘惑を受けられた。その間、何も食べず、その期間が終わると空腹を覚えられた。3 そこで、悪魔はイエスに言った。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」4 イエスは、「『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある」とお答えになった。5 更に、悪魔はイエスを高く引き上げ、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せた。6 そして悪魔は言った。「この国々の一切の権力と繁栄とを与えよう。それはわたしに任されていて、これと思う人に与えることができるからだ。7 だから、もしわたしを拝むなら、みんなあなたのものになる。」8 イエスはお答えになった。「『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある。」9 そこで、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて言った。「神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ。10 というのは、こう書いてあるからだ。『神はあなたのために天使たちに命じて、あなたをしっかり守らせる。』11 また、『あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える。』12 イエスは、「『あなたの神である主を試してはならない』と言われていた」とお答えになった。13 悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスを離れた。』

【説教】

今日の聖書の言葉は、イエスさまが悪魔から誘惑を受けるところが記されています。イエスさまはこの時、洗礼を受けたばかりでしたが、早速と言いますか数々の試みに遭わされました。このことは、イエスさまに限らず、洗礼を受けた人なら誰しも少なからず経験することかもしれません。私も覚えがありますが、受洗後の2月後だったと思いますが、体中がヘルペス(帯状疱疹)になりました。人生で初めてでしたが、その変調は体だけでなく、まさに荒れ野をさまようがごとく、心が乱れていると考えることが多くなったことを覚えています。

それまでは何も考えずに同じことをくり返していただけたことでも、一つ一つこれはどういう意味があるのだろうか。今までの自分の生き方は聖書の言葉に照らすと、いったいどうなのだろうかと考えるようになりました。あれも違っていたし、これも間違っていた。なんて恥ずかしいことをしてきたんだと、後から後からと段々と自分の歩んできた姿がハッキリ見えるようになりました。その中の一つとして、人生の中で自分は何を一番大切に生きてきたのだろうかという問題に、出会うこととなります。

イエスさまはここでまず、パンを奇跡を起こして増やすという誘惑に遭われていますが、これは私たち人間ならだれしも同じように問われることがあることだと思います。パンを経済的に必要とするすべてのものだと考えますと、とても身近なことに思えないでしょうか。私は、初め今までの考え方の延長線上に立って、こう考えました。「わざわざ信仰者となったのだから、神さまは自分を特別にかわいがって下さり、自分に得になる何かをもたらしてく

れるだろう」と考えたのです。ちょうどその後、牧師になるために神学校に行くことを決めました。しかし、お金は十分にはありません。どうしたかといいますと、宝くじを買ったのですね。「きっと神さまは当ててくれるはずだ、奇跡を起こしてくれるはずだ」と、まじめに思いましたが、しかし外れてしまいました。私は、「なんで助けてくれないんだと、自分がかわいくないのか」まじめに恨みました。

ただですね、ここで言いたいのは、奇跡が起きることを望むことが間違っているのではないということです。イエスさまは、何千人、何万人もの必要を満たすために、5つのパンと2匹の魚を奇跡を起こして増やしています。ですので、この信仰は奇跡を望んでも良いのですね。じゃあ何がいけなかったのか。それは、3つめの誘惑のところにつながりますが、神さまのことを、人間の私たちが試してはいけないというところですね。私の例で言えば、「牧師なるのだから、神は必ず応援してくれるはずだ。だから、宝くじに必ず当ててくれるはずだ」としてしまいました。この「必ず」というところが、神を試しているのですね。これは言い方を返すと、私の思いを神の思いに押しつけていることだと言えるわけです。神さまがどう考えているか、本当は誰もわからないことです。宝くじに当てないことの方が、私が牧師になることの上で有益なことだと考えられているかもしれません。それを、自分の思いを絶対通して欲しいというようにしてしまうのは、まさに悪い者から出るものだという事ですね。自分の願いや計画を立てること自体が、悪いわけではないと思います。ただ、それが適わなかったからといって、神さまが願いを聞いてくれなかったわけなのではないのですね。その思いをより大切なことにおいて、実を結ぶように神さまはご計画なされているということに、信頼をおくべきなのだという事です。

「人はパンだけで生きるものではない」と、ここでイエスさまはおっしゃっています。パンが増えさえすれば、人生のすべてのことがうまく行くはずだと考えて来たこと、このことが間違っていたのだということを感じさせられました。パンが沢山あっても、そこに不安や恐れ、争いや憎しみが蔓延していれば、とても生きた心地は致しません。パンはなかなか満たされなくとも、そこに神の言葉から学んだ愛や慈しみがあれば、少ないパンでも分け合って笑顔になることもできますね。パンと魚が沢山増えた奇跡が起きたときも、この神さまの愛や慈しみがイエスさまによって、そして給仕する者たちを通してもたらされていたからこそ、奇跡は起こったのです。神から出た愛によって起こった奇跡でなければ、私たち人間にとって真に価値のある奇跡とはならないということ、聖書は言いたいのだと思います。

そして、今度は、悪魔はイエスさまを、とても高いところに引き上げて世界のすべての国々を見せました。そして、この国々の一切の権力と繁栄をあなたに与えようと誘惑いたしました。大変魅力的な誘いだと思います。しかし、ここには悪魔が偽っているといえますか、うまくだまして言っているところがあります。まあ、悪魔ですから、人間をだますのはお手の物で、彼らの一番得意なところですね。私たち人間は、いつもいつも同じところでこの偽りにだまされてしまい、いつも同じところで失敗をくり返してしまいます。ですので、今日は彼らの手口を見破って、今後だまされないように気をつけたいと思います。では、どこでだましているのかということですが、ここで悪魔は「すべての国々の権力と繁栄が、一切自分に任されている」と言っていますね。しかし、みなさん。一端誰が、悪魔になんか、そんな力

を任せたり致しますか？まさか、神さまがそんなことをするはずはありません。するとしたら、せいぜい人間が悪魔を拜んで、自分たちの力を売り渡すぐらいですね。そうです、実はすべての国々の権力と繁栄を悪魔に渡してしまっているのは、神さまなのではなく人間の方なのです。あたかも悪魔たちは、神さまと等しい力を持っているように見せかけていますが、それは偽りであり虚構の権力と繁栄です。人間の方がちゃんと見ている方向を変えて、神さまだけを拜んで仕えるようになりさえすれば、悪魔は力のすべてを失い悪さを企てることは出来なくなります。ですので、問題は悪魔の存在におびえたりすることではなく、人間の心を神の方に向けることです。私たちの心の中のあり方そのものと向きあって行くことの方が、必要なことなのです。

私たちの心の中に、人よりも得たい、栄えたい、有名になりたい、誰かをたとえ犠牲にしても自分の手柄を立てたいといったような思いが沢山あるからこそ、悪魔の誘惑に乗っかってしまうわけです。その誘惑に乗る前に、本当にそれらを手に入れたところで自分は幸せになれるのだろうか、周りの人々を笑顔に出来るだろうかとよく考えなくてはなりません。イエスさまはここで、聖書の言葉(申命記という旧約聖書のところ)を引用して、悪魔の誘惑を退けました。これは、私たちがどのようにすれば、まんまと悪魔の誘いの乗っからずに、真の命の救いの方に進んで行けるのかの方法を教えてくれているものです。悪魔も詩編の聖書の言葉を引用して誘惑していますが、イエスさまは何が聖書の中心なのか、何が本質的な聖書のメッセージなのかそのことを吟味して、悪魔に対抗されたのです。このことを、私たちもやはり取り組む必要があるのだとそう伝えたいのだと思われま。 権力といいますが、人々を適切に導く権限や、適度な人と人の間で行われる営みを導く役目というのは、心を神さまに向けて神に従う道を歩んでいるのであれば、どうでしょう、自ずと人々からまかされるものではないでしょうか。その人々による信頼は、まさに神さまから与えられた天からのものとして、誰からも文句を言われたいと思われま。

私たちの人間の方は、神さまを試してはいけないのですが、神さまの方は私たちを試みに遭わせて試練に遭わせられます。ずるいじゃないかと思わなくてもありませんが、何も神さまは意地悪をして悪意を持ってそうなされるわけではないのです。悪魔が働いているとしか考えられない酷い状況にたとえ導かれていったのだとしても、そこには何かしらの神さまの大切な思いがあるはず。その試練の道を行くときは、本当に圧迫されてぎゅうぎゅうと両方から押しつぶされそうになります。しかし、その狭い道をなんとか抜け出したところに、神さまが満を持して用意して下さっている憩いの青草の原が待っていてくれます。イエスさまと私たちを、荒れ野に導くのは悪魔なんかではなく「神の霊」です(1節)。良いものも悪いものも、すべて神さまのみ手から受け取ろうという深い信仰を頂けるように願いたいと思います。

私たちが誘惑に遭い、迷ったり苦しんだりするのは、よりよい私たちの命のあり方を創造するための神さまの手の中にある道のりなのです。すべての国々の権力と繁栄を、一切ご支配されているのは神さまだけです。その神さまがご統治されているこの世界を、恐れることなく歩んで参りたいと願います。